

日本と台湾 120年間の歴史を考える

2016・3・16 島川謙二

▼概論 人口 2350万人(98%が漢民族)本省人(戦前から)85%(うち70%が福建系、15%が客家はっか→清朝時代 広東省南部からの移民の末裔) 外省人 13% 在台湾の外国人 50万人の15万人がベトナム人) 台湾は 本島、金門、澎湖、馬祖から成る

九州と同じくらいの面積 外貨準備高。世界5位 台湾に漢族が入って来たのは17世紀以降 福建や広東から 1604年オランダによる支配明→清→日本の統治へ。日本は1970~1994年で 台湾も1993~2018年で高齢社会(65才以上14%)へ

▼総督統治時代 植民地支配の経験のない日本政府。1895年の下関条約以降 1945年までの50年間、19人の総督、台湾を支配し近代化させた。

第4代 児玉源太郎陸軍中将 第7代 明石元二郎陸軍中将(ロシア諜報活動 1年3カ月台湾総督として 水力発電所建設 嘉南の水利システムの建設 教育制度改革 台湾に眠る。) 田文官~第16代まで17年間文官 第4代 児玉源太郎(1898~1906)で、ようやく安定し開発がすすむ。日本語教育 民政長官・後藤新平『台湾近代化の父』医師。生物学の原則→生態の把握→徹底的な調査。インフラ整備、土地と人口の調査、アヘンのゆるやかな抑え込み、保甲条例で地方行政、。1902年 土匪勢力を根絶、処刑3万人 マラリア、コレラなど伝染病対策 台湾の慣習を重んじる。1898年台湾貨幣の発行権限持つ台湾銀行創設。砂糖、樟腦、米、茶、塩。人口も増加→245万人(1897年)から308万人(1903年) 1901年 製糖業の近代化・育成に 新渡戸稲造を招く→台湾最大の産業へ 台湾近代化の基礎道路・鉄道・下水道・港湾(基隆・高雄)橋梁を建設→日本軍を動員→人的交流、物流が拡大 台北・台南の2大都市を整備拡充 1915年6月最後の漢民族の大規模蜂起→西来庵事件(台南) 1930年霧社事件(原住民の抗日事件) 1931年満州事変 1942年志願兵制度 1944年徴兵制度

八田與一 一大穀倉地帯→嘉南平野 15万ヘクタール 烏山頭ダム→当時東洋最大のダム 竣工は戦後の27年 1920~1930年 第1次大戦後 台湾にも民主主義、民族主義、社会主義の動きあり 神社参拝強制、日本語強制、日本名の強制が 志願兵が殺到 創氏改名が 朝鮮では任意申告制で 台湾では許可制だった。台湾から優秀な少年工たちが日本へ

▼戦後 1945年10月25日 中華民国台湾省として 光復節 1946年3月までに台湾の日本人49万人が帰国 国民政府役人の腐敗 『イヌが去ってブタがやってきた』

2014年3月 学生による立法院占拠。ヒマワリ運動 中国へ接近に反発

本土から来た人の方が民度は低かった。→60万人 私掠かぎりの蒋介石軍は民衆の支持を失う。馬鹿者・陳儀(福建省の主席を務めた)を派遣。

孫文は本省人にも外省人にも敬愛された。孫文の号 中山 三民→民族 民主 民権 『天下為公』天下をもって公となす。『中国4億の民衆を救い、東亜黄色人種の屈辱をそそ

ぐ』1945年10月25日 中華民国台湾省として 光復節 1946年3月までに台湾の日本人49万人が帰国 国民政府役人の着服 異常な超インフレ、外省人が官僚の上級職を占めた→台湾人の不満高まる→1947年2月28日事件 台湾人2万人殺される 白色恐怖時代→1950年～1987年まで戒嚴令 づく) 毎年 228 追悼式典

1948年後半頃から故宮博物館の品を台湾へ 1949年10月 中共成立 同年12月7日 蒋介石台湾へ 1950年6月 朝鮮戦争勃発 1952年日華平和条約 1951年9月サンフランシスコ講和条約(1952年4月発効) 1971年 中国国連加盟・台湾脱退 1972年日中共同声明 1974年9月 日中国交回復 1975年4月 蒋介石死去 蔣経国総統へ 1988年蔣経国死去 李登輝総統就任 1978年蔣経国が総統に。12月蔣家は継がないと宣言し 1988年蔣経国死去 李登輝第8代総統就任へ 戒嚴令が数十年ぶりに解除され自由が回復 民主化へ 『びくびくせずに ぐっすり眠れる国にしたい』 統一の3条件 ①中国の政治の民主化 ②中国の経済の自由化 ③中国を社会公平な社会へ 民の欲するところ 常にわが心にある 1996年3月 総統選挙で直接国民が選ぶ 任期を6年から4年

台北市270万人 新北市(Y台北の外側)396万人 高雄市277万人 台中市271万人

1999年9月 台湾大地震 M7.3 死者2400人 負傷1万人 1番にかけつけた日本隊 2011年3月 東日本大震災に200億円以上を日本へ 『台湾は中国の一部である』を『理解し尊重する』日本政府 日本の交流協会と台湾の亜東関係協会が大使館的機能はたす 尖閣諸島の領有権宣言→日本 1895年 中国、台湾 1971年 2000年3月 陳水扁総統へ 李登輝国民党主席辞任 経験不足の民進党 汚職はびこる。与野党対立激化 台湾独立がテーマ 『すでに存在しているのだから、改めて独立云々で国際摩擦を起こすことはない。国号を中華民国から台湾へ 台湾の現状に即した憲法を台湾人自ら。制定せよ。台湾は一つの主権独立国家である。』【李登輝】民主化必ずしも民主国家化とならない。2008年 馬英九(国民党・香港生まれ)が政権奪取 中国傾斜を強める。国と国の関係ととらえない馬を李登輝は批判 2012年再選 中国への投資増大 台湾内の格差拡大 2014年3月 学生による立法院占拠。ヒマワリ運動 中国へ接近に反発

▼李登輝 180センチ キリスト教徒 農業経済学者 淡水出身 最も教養の高い名利の欲のうすい人 22歳まで日本人だった 司馬遼太郎は李登輝と親友 この国のかたち 台湾篇。李登輝は台北高校へ入学 1クラス40人のうち台湾人は3～4人 東京大空襲の時 高射砲で戦った李登輝 プラグマチズム 台湾市長に就任した時『誠、公、廉、能を自分の基本態度と表明。』 日本人の誠実・勤勉・奉公・遵法に学べ

『その歩みが、のろかろうがなんだろうが、アジアは生きたい生きたいと叫んでいるのだ。西欧は死にたくない死にたくないと言っている。』 堀田善衛 「インドで考えたこと」